

青年部・青年局、女性局合同全国大会 ——党大会前日レポート



「地方組織こそ、自民党の強さであり、パワーである」と
安倍晋三総裁

「統一地方選挙に勝ち、来年の参议院選挙でも勝つ」と
谷垣禎一幹事長

60周年を迎えるわが党 今後の主役は女性局と青年局

全国女性局長・代表者会議の後、大沼みずほ女性局次長・青年局次長の司会で「青年部・青年局、女性局合同全国大会」が開催されました。主催者あいさつで三原じゅん子女性局長は「女性局はこれからも子供たち、女性たちを守っていく」と、改めてその決意を語りました。続いて木原稔青年局長は統一地方選挙の必勝、地方創生、憲法改正の3つを掲げ、「青年局が党の中核を担い、しっかり取り組んでいく」と述べました。



女性局の活動について語る
三原じゅん子女性局長



「積極的に政治に関わる若い世代を導く」と
木原稔青年局長

来賓あいさつで登壇した安倍晋三総裁は「変化こそ唯一の永遠」と、明治の美術史家・岡倉天心の言葉を引用し、「60年の長い伝統を持つわが党も決して変化を恐れてはならない」と述べました。さらに「自民党の誇りは無責任な批判にたじろがず、責任感を持ってやるべきことを敢然とやってきたこと。これからその

局・神奈川県連青年総局・大阪府連青年局」の活動報告がありました。東日本大震災被災地のチューリップ球根を購入し、保育園などに贈呈する取り組みや皇居での勤労奉仕活動、自民党学生部の勉強会の様子、地方政治学校の運営状況など、数々の意欲的な活動がレポートされ、出席者の士気をさらに高めました。



ガンパローコールで、統一地方選挙必勝に向けて一致団結

中心となるのは、地方組織であり、自民党の最大のパワーである女性局、そして青年部・青年局だ」とエールを送りました。

も、政府もわが党も支持率は好調だが、油断はできない。党本部はもちろん、各県連、候補者にも頑張っていたいただき、必ず勝ち抜いて安定した政治をさらに推し進めていかなければならない」と語りました。

そして田中和徳

組織運動本部長は、党員の獲得、憲法改正などの項目を挙げ、「いつまでもわが党がこの大切な日本をリードできるような力を尽くしてほしい。ともに頑張りましょう」と呼び掛けました。続いて北島一人徳高県連青年局長の発声で、統一地方選挙必勝コールが行われました。「大勝利を目指してガンパロー」の声で会場が熱気に包まれました。

今年の活動を振り返り 昨年の活動を振り返り

その後に行われた議事では、田伏加南代富山県連女性部長、長屋光征岐阜県連青年局長がそれぞれ女性局、青年部・青年局の昨年の活動報告をしました。

続いて宮川典子女性局長代理、牧原秀樹青年局長代理が両局の今年の活動方針案を説明し、会場一致で了承されました。

最後に、翌日の党大会で優秀党組織として表彰される4組織（兵庫県連女性局・熊本県連女性

優秀党組織として表彰される4組織の代表者



浦田祐三子熊本県連女性局長



中村かよ子兵庫県連女性局長



太田晶也大阪府連青年局長



加藤元弥神奈川県連青年総局長

今年の活動方針案などを協議 女性局幹事会開催

2月13日、女性局役員と
各都道府県連ブロックの代表者が参加し、
女性局幹事会が開催されました。
その様子をレポートします。



党本部において、二部構成で行われた女性局幹事会

目覚ましい活躍の女性局 統一地方選挙対策も重視

女性局幹事会第一部（協議）は、三原じゅん子女性局長の開会のあいさつで始まり、昨年末の衆議院議員総選挙の勝利について謝意を述べました。

女性局役員、各ブロック代表者のあいさつ後、今後女性局が取り組むべき活動等について、全国のプロック会議や書面調査を通じて集まった意見の報告が



開会のあいさつをする
三原じゅん子女性局長

あり、協議が始まりました。そして、統一地方選挙の女性議員候補者支援について、改めて三原女性局長からお話がありました。女性局の役員・幹事で谷垣禎一幹事長に直談判したエピソードを披露し、党籍のある女性候補者には要望に応じて女性局政策パンフレットや女性局必勝ダルマを提供、都道府県議会議員選挙の女性候補者に応援弁士を派遣できることになったと説明。

また、2020年までに指導的地位に占める女性の割合を3割にする目標に対して、女性議員が未だ少ないことに触れ、「意欲ある女性が政治に挑戦できる環境がどうすれば整うか、一緒に議論させていただきたい」と述べました。



女性局幹事会には、各ブロックの代表者ら
23人が参加

女性の健康を守るために まずは病気になるための知識を

第二部（勉強会）では、「日本の糖尿病の現状と糖尿病啓発運動」と題し、医薬品の研究・販売などを行うサノフィ（株）のジェレミー・グロサス部長が講演を行いました。

テーマの糖尿病について三原女性局長は「日本には今、自覚のない糖尿病患者やその予備軍が多いそうです。女性活躍推進のために、女性は常に健康であらねばなりません。また、女性は家族の健康管理も抱えています。本日の講演をぜひ地元での啓発活動に役立ててください」と話しました。

グロサス部長は初めに、糖尿病の特徴について、原因、種類、

合併症のリスクなどを分かりやすく説明しました。また、糖尿病と上手に付き合っていくためには「血糖値の1〜2カ月の平均値であるHbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）の数値が非常に大事。血糖値は一時的な変化よりも数カ月の長い単位で数値に注目し、健康管理するべき」とアドバイスしました。

続いて、なぜ糖尿病が大きな社会問題なのかについて解説。患者が増えていて今後も増え続けていくこと、糖尿病患者のうち治療で血糖をコントロールできている人はわずか50%ほどである現状、合併症が増えると医療費も増加することなどを挙げました。

グロサス部長は最後に「まずは病気を知ることが大切。自分のため、家族のためにもぜひ健康診断に行ってください。糖尿病が早く分かると、早く治療を始められて合併症のリスクが減ります」と話し、さらに「啓発活動は企業や医師会、行政、製薬会社など、地域の連携が必要不可欠です」と訴えました。



第二部（勉強会）の様子。現在、日本の糖尿病患者は950万人。10年後には、約1.6倍の1500万人に増えると言いき、驚きの声も



「糖尿病の予防、早期治療のためにも健康診断の受診を」と訴える講師のジェレミー・グロサス部長



女性局幹事会でハーブティーを振る舞ってくださった川内美登子さんは、女性局の一員として活躍するかたわら、ハーブを通じた様々な取り組みを展開しています。活動を始めたきっかけや現在の状況、ハーブを気軽に楽しむコツなどを伺いました。

川内美登子 (かわちみとこ)

ハーセラピスト・臨床心理士。日本とイギリスで10年間の心理臨床を経験。イギリスにてハーブ、アロマ、フラワーエッセンス指導講習修了。「心理＆ハーブ教室 銀座本校」銀座校主宰。ハーブ療法に必要な心理カウンセリング能力を有する専門家（メンタルハーピスト）の育成に力を注ぐ。



厚生労働省(求職者支援訓練)のハーブティー教室の様子

Q1 川内さんがハーブを使った活動を始めたきっかけは？

臨床心理士としてイギリスの病院に赴任していた時、よくハーブティーを飲む機会がありました。そのリラックス効果を実感して、ぜひ患者さんに飲んでもらいたいと考えるようになりました。現地でハーブを学んで帰国後、カウンセリングで患者さん一人ひとりに合ったハーブティーをブレンドして出していました。そのうち患者さんから「ハーブを習いたい」という声が出て、教室を開設。だんだん口コミが

広がって「ハーブをもっと知りたい」「資格を取りたい」などの要望に応え、新たに資格もとれるようにしました。生徒さんの夢を叶えようとただ一生懸命でしたが、様々な人に助けられてだんだんと道が広がってきました。今ハーブの活動は私自身の芯ともなっていて、感謝の気持ちでいっぱいです。



Q2 女性局幹事会で振る舞われた、各地域のハーブティーは？

ハーブを趣味やおしゃれではなく、学問として広めたいという考えがありました。それと同時に、せっかくなら日本の役に立ちたいとの思いもあり模索していた時、柿の葉や桃の葉、シソなど和のハーブにも良いものがたくさんあると気付きました。そこで「47都道府県の産物→ハーブティーなどに商品化→販売→地域に寄付して還元」する事業モデルを計画。現在、福井県の桑の葉で商品化を実現し、その売り上げの一部を福井県鯖江市に寄付しました。また、岩

手県と大分県のサフランもすでに商品化。今後、東日本大震災被災地の学校に寄付するなど、地域に還元していきたいです。女性局幹事会でお出ししたのは発売前のハーブティーでしたが、今年中には47都道府県全てを商品化したいですね。

81ページ「セレクト&プレゼント」で、女性局幹事会で振る舞われたハーブティーを10名様にプレゼントします

ハーブティーを試飲し、笑みのこぼれる女性局役員と、川内美登子さん(右から4人目)



「自分たちの地域で採れたハーブティーを飲んで、心も体も元気に」と丸川珠代東京都連女性部長



桑の葉やミカン皮、食用薬など、各地の産物を使ったハーブティーが振る舞われた

**日本の地域資源を活用
ハーブティーで地域に元気を**

第一部と二部の間にティーブレイクとして、地域活性化をテーマにしたハーブティー試飲会が開催されました。

まずは東京都連女性部長の丸川珠代参議院議員から、臨床心理士であり、日本各地のハーブ研究をしている川内美登子さんの紹介がありました。

「安倍内閣では今、それぞれの地域資源を生かした地方創生に取り組んでいます。47都道府県それぞれの産物をハーブティーに仕上げて、地域を盛り上げていく彼女の活動を知っていただきたい」と説明しました。

会場では、川内さんがブレンドしたハーブティーが振る舞われました。

参加者は、今回集まった女性局幹事である8県(福島、神奈川県、富山、愛知、滋賀、広島、高知、沖縄)の地元で採れるハーブのお茶(8種+8県全てのブレンド)を飲み比べながら、各々交流を深めました。